

2018年度 学校評価 わらべ幼稚園

I 経営の重点にかかわること 評価段階 (A:よくできている B:できている C:あまりできていない D:まったくできていない)

1 園教育・保育目標：やさしく・かしこく・たくましい子	自己評価	園関係者評価委員会から	
園の教育目標を理解し目指す幼児の姿をイメージして、保育の計画を立てる	B	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育目標はこどもと接する時の基本姿勢です。教職員の共通理解が大切で何を大切にしていくなか話し合いが重要です ・年齢や子どもに合わせた保育になっていた。今年の経験を2年目に生かして欲しい ・わらべの保育の継承をして欲しい
・職員研修でわらべで大切にしたい保育を話し合ってきた。乳児保育は今年1年で流れをつかんだので次年度は基礎を作っていきたい ・自分なりに目標を理解し保育をしてきた。計画をもう少し細かく立てていきたい ・子どもの様子や年齢により保育計画を立てた。季節の行事、歌、絵本など取り入れた ・子どもの姿を捉え、遊びを工夫してきた。乳児保育の計画会議を持つ時間が足りない			
(園関係者評価を受けての改善) *職員会議など話し合いの場を多く設け、保育計画をしっかりと立てる * わらべの保育を教職員で確認し合う			
2 重点目標 ・仲間の中で成長し仲間を大切に する子	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の興味と集団での影響などを見通して環境設定する ・遊びが発展するよう設定してくれている ・廃材を利用しての製作も良かった工夫することも大切です
(園関係者評価を受けての改善) *保育室の環境 工夫をもう少し考えていきたい * 乳児の部屋や遊びの場での環境を整えていきたい * 園庭の整備も考えていく			
・丈夫な体を持つ子	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・保育は子どもと一緒に作り上げるもの子どもと何をやりたいか、どんな風にしたかなど考える保育であって欲しい ・先生たちは子どもと話をしたり一緒によく遊んでくれた。 ・一人一人に目を向け、声掛けも上手です ・丁寧に保育をしてくれた ・他学年との交流をして先生たちが全員の子を把握できるとよい
(園関係者評価を受けての改善策) *こどもたちに寄り添った保育を今後もしていく * 子どもの気持ちをキャッチできるよう様子を見たり遊びを広げていく			

II 各領域にかかわること

大項目	中項目	評価指標	自己評価	園関係者評価委員会から	
こども園における教育及び保育	(1) 0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	一人一人の発達や経験を把握し理解した上でわくわくしながら園生活が過ごせるよう援助する	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日はこんなことをしたい」「明日は続きができるよ」と楽しみながら登園できるわらべでいて欲しい ・活動に目的を持たせてくれたことで楽しそうに取り組んでいた
		<ul style="list-style-type: none"> ・遊び、生活、食事など子どもの発達に合わせ、声をかけたり、できた喜びを持てるよう心掛けた ・日々の生活や行事に追われて子どもたちがわくわくする体験が少なかった ・子どもの活動の中で褒めたり、励ましたり自信を持つよう働きかけた ・イメージを持った活動が子ども達の中で膨らみ展開されていった ・計画を立て、子どもたちの様子が見れて発見も増えた ・保育者が子どもたちと一緒にわくわく共感し楽しめる活動をしてきた 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通して一人ひとりに合わせ体や心の発達を促す保育ができていた ・乳児さんとのかかわりも楽しそうであった ・先生も一緒に楽しめるって最高です
		(園関係者評価を受けての改善) *乳児から幼児まで見通しをもって一人ひとりの発達に合わせ、教師も子どももワクワク感をもてる保育をしていきたい			
	(2) 1日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	スキンシップを取り、子どもに寄り添い、安心して穏やかな気持ちで生活できるよう援助する	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と子どもが安心できる人間関係を作ることを大切にしたい
		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安心できる、思いを受け止め、甘えられる場所を作った ・スキンシップをたっぷりとした。先生でもあり、母のような存在のように心がけた ・先生は見ていてくれる、分かってくると安心感・信頼感を持てるようにした ・褒めるときは大いに褒めるようにした・子どもの目線で対応した 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに寄り添った保育になっている ・先生が寄り添って、家族のような関係になってくれた ・褒めて育てる保育、安心感、信頼感が大事である
	(園関係者評価を受けての改善) *スキンシップを取り、子どもが安心感を持てる保育をしていく 褒めることを増やしていく				
	(3) 環境を通して行う教育及び保育	5感を通しやってみたいと思うような経験を広げていけるような環境を用意する	B	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・5感を刺激する園外保育を取り入れている
		<ul style="list-style-type: none"> ・裸足になったり、砂場・泥んこ・水遊びなど保育者が率先して遊んだ ・室内でも裸足の保育をしている ・子どもの興味関心を捉え、材料、遊び場、道具を準備してきた ・5感を通しての環境づくりはなかなか難しい ・畑での野菜作りやクッキング・食育を通し感覚を育てている ・乳児でも楽しめるリズム・踊り、泥んこ・マット遊び・新聞プールなどで遊べた 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと泥んこ遊び・川遊び・自然遊びができるとうよい ・5感を通しての保育は「わらべ」ならではの取り組みができる ・畑を有効に使うとうよい、雑草取りは保護者が協力する
	(園関係者評価を受けての改善) *室内でのほだし保育を充実させる。 砂場遊び、泥んこ遊び、水遊び、川遊び、園外保育をもっと取り組む				

2 安全管理・ 指導	(1) 事故防止 防災	災害・不審者・交通安全など様々な状況を想定し、園児に安全行動を身に着けさせる	B	評価	・教職員が様々な場면을想定し対処方法を意思統一することが大切
		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月 防災訓練を行い、子どもには絵カード・パネルシアター等で防災の意識化を図った 起震車体験もできて良かった ・訓練を繰り返す中で、上靴やクッションのかぶり方・ダンゴムシポーズが上手になった ・散歩に出かけるときは交通ルール・歩き方を教えていった ・乳児の場合は職員の動きの対策をしっかりしていきたい 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くにあたって交通ルールを学ばせた ・日々の安全・安心は園生活で大切なこと。十分の対応をして欲しい ・防災訓練の内容など知らせて欲しい ・不審者対策に共通の音楽を取り入れても良いと思う
(園関係者評価を受けての改善)					
* 安全管理は重点課題である 教職員の共通理解をもち、訓練をしっかり行う					
3 保健管理・ 指導	(1) 健康教育 の充実	基本的な生活習慣が身につく健康に過ごそうとする	A	評価	・健康には基本的な生活習慣を身につけることが大切です
		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活リズムに合わせ声掛け援助をした ・保健便り・食育便りを出し保護者にも健康な体づくりを働きかけた ・衣服の調節など自分で判断できる子が増えた ・手洗い表などを掲示したことで正しい手洗いを学んでいた ・身支度など個人差があるので個々のペースに合わせる ・手洗いの習慣・予防マスク着用・感染予防を徹底させた ・リュックの日たくさん歩き体力をつけている 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児が一人もインフルエンザに感染しなかったことはすごいこと、予防がしっかりできていた ・家庭との連携で生活習慣ができると思います ・年長児はハンカチを持ってよかった ・丁寧な手洗いが習慣ついた
(園関係者評価を受けての改善)					
* 個々に合わせた基本的な生活習慣を指導していく。 * 家庭の協力も働きかける					
4 特別支援 教育	(1) 支援体制 づくりの 推進	個々の状況に合わせて支援計画を立て、全職員がかかわりを持ち援助しようとしている	B	評価	・専門に対応できる人員が確保できると良い
		<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要としている子の支援ノートなど研修で学んだことを十分生かせなかった。次年度は支援体制を作り職員研修をしていきたい ・全職員が話し合える体制はまだ整っていない 情報共有が難しい ・保護者との理解に関して難しい現状がある ・職員会議で個々の子について話し合う機会を持っていきたい 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる子の対応は全職員の共通理解を図ってほしい ・これからも増えてくると思うので対策は必要です。
(園関係者評価を受けての改善)					
* 職員研修をして情報共有していく * 保護者と話し合いを持ち理解してもらう					

5 組織運営	(1) 組織体制の 充実	<p>日常の保育や園行事について手紙、パネル、写真など利用して、保護者に説明や協力事項をを伝え職員間で連携して教育保育を進めている</p>	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> 子どもは保護者と一緒に育てていくもの。相互理解ができるよう対応して欲しい 役員をやり園での様子がよく分かった スムーズな園運営に保護者との連携、職員相互の連携は重要だと思う 個人面接の期間を作って欲しい
		<ul style="list-style-type: none"> ・食育だより・保健だよりを発行し保護者に伝えた ・行事など保護者にお手伝いを募って参加してくれた方とコミュニケーションが取れた ・園内の連携を取ることが難しい1年であった（乳児と幼児の関係性） ・毎週クラスだよりを発行し保育を発信してきた ・毎日のノート・クラス便り・希望面接などで保護者に対応している ・懇談会や園だよりで写真を掲示した 		A	
		<p>(園関係者評価を受けての改善)</p> <p>* こども園の2年目に向け教職員の連携をとる * 保護者に保育の様子を知らせたり、お手伝いなどに参加してもらう</p>			
6 研修	(1) 研修体制の 充実	<p>「わらべ独自の保育」 どんな遊び・環境・子どもの成長への手立て 具体的な共通理解を進めているか</p>	B	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・保育のマンネリ化を防ぐために研修は必要である。成果を確認するための職員会議も必要です ・教師のスキルアップに研修は必要です ・わらべ独自の保育について保護者も知りたい ・教師同士が仲が良いことが大切です
		<ul style="list-style-type: none"> ・研修に参加してきたが職員間に伝達する場がなかった。次年度は全体研修・乳児・幼児研修をしていく時間を作りたい。土曜日を使つての研修を検討し、わらべの保育を作り上げていきたい ・各学年の目標や大切にしたい保育を文書化し伝える方法も検討したい ・新しい保育教師にも共通理解できるよう研修したい ・乳児の保育について発達の捉え方、保育について研修したい 		A	
		<p>(園関係者評価を受けての改善)</p> <p>* 研修・職員会議の時間を設け、わらべの保育について教職員間で話し合う</p>			
7 教育・保育 環境整備	(1) 支教育・ 保育環境の 充実	<p>ごっこ遊びや子どもがイメージを豊かにする遊びの環境を工夫しているか</p>	B	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通してイメージを持った保育は「わらべ」の素晴らしい保育です ・先生も一緒に遊ぶことが良い ・先生たちが上手にイメージを膨らめて発展させてくれている
		<ul style="list-style-type: none"> ・ごっこ遊びの中に一緒に入り、楽しさを伝えたり、必要なものを作ってきた。子どもの興味をキャッチし遊びの環境を作ってきた ・年間を通しイメージ遊びを展開してきたがもっと楽しめることを経験させたかった。イメージしたものを膨らませて保育をしてきた ・室内の遊びの環境を作ってきたがもう少し工夫が必要であった ・子どものつぶやき思いを受け止め総合的な環境作りを意識してきた ・乳児でもイメージのある遊びを取り入れることができる 		A	
		<p>(園関係者評価を受けての改善)</p> <p>* 保育室の環境構成をしたり、子どもがイメージしたものを膨らませて保育をしていく</p>			

8 家庭との 連携・協力	(1) 家庭教育 への支援 機能の充実	子どもの発達や活動の様子を降園時や保護者面接・懇談会で伝えたり お便り・ボードなどで積極的に知らせている	A	評価	・親子の時間が持てるよう家庭にも援助する ・どの子にも暖かな目で接してくれた ・先生たちが子どものことを話してくれる ・連絡帳でよく連絡を取ってくれている ・担任でなくても話しかけてくれる ・保護者の話を聞くことも今以上に大事 にして欲しい
		<ul style="list-style-type: none"> ・乳児は送り迎えなのでその日の様子を直接伝えられ、関係を作れた ・保護者への「行ってらっしゃい」「おかえりなさい」の挨拶で保護者 を安心して送り迎えできた ・連絡ノートでその日のエピソードや伝えたいことを知らせ来園した時 は声掛けを積極的に行った ・心配事を知らせてきた保護者には面接する機会を持った 		A	
(園関係者評価を受けての改善) * 連絡ノートやお手紙、面接等で保護者に子どもの様子を伝える					
9 近隣の園と の連携	(1) 近隣の園との 連携の推進	近隣の小中学校との連携を図り、交流、情報交換を進める	B	評価	・他園との交流等で視野を広げて欲しい ・小学校とも交流してほしい ・羽鳥地区の小中学校との交流や子育て 支援連絡会に積極的に参加して欲しい ・中学生との遊びは子どもが喜んでいる
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援の会に参加し近隣の園の先生たちと話たりヒントを得た。 ・近隣中学生との交流が子どもたちは楽しめた。小学校との交流もしたい ・近隣の小学校の先生との交流し子ども達の成長を確認できた 		B	
(園関係者評価を受けての改善) * 小中学校との交流を進めたり、地域の子育て支援会議での交流をしていきたい					
10 地域との 連携	(1) 信頼される園 づくりの推進	地域住民や施設等とのかかわりを大切にしながら、園だけではできな い体験をする機会を持つようにする	B	評価	・地域に子どもの声が響く明るい人間 関係が作れると良い ・デイサービスでの交流は良いことだ と思う ・核家族が増えているのでお年寄りと の交流は良いことだと思う
		<ul style="list-style-type: none"> ・散歩に出かけたときは地域の人に挨拶や声掛けをしてきた ・デーサービスへの訪問は楽しい経験になった ・周辺の方に園の行事や様子の発信し協力や理解を深めていきたい ・S型デイサービスに参加しお年寄りと交流してきた。 園に招待することも考えてはどうか 		B	
(園関係者評価を受けての改善) * デイサービスの参加・散歩での挨拶・わらべランドのお知らせなど地域に知らせていく					

<p>1 園から経営のまとめ（成果と課題）</p>	<p>園関係者評価委員会まとめ</p>
<p>* 年中児の転入児が多かった * 幼児1号児が2号児への変更が多かった</p> <p>* 満3歳児が7月に定員になりそら組が12名になった。その後も満3歳児入園の間合わせが多かった</p> <p>* 0・1歳児の途中入園があった</p> <p>* 保育教師を募集していたがなかなか応募者がいなかった 次年度も募集していきたい</p> <p>* 6月・9月・11月 途中から保育教師・給食お手伝いを採用した</p> <p>* 保育教諭2名が傷病休暇や産休・育休に入りその組の子ども達が戸惑わないように主任が対応してきたが、新しい保育教師が決まらず迷惑をかけた</p> <p>* 保育教師が増えたが、保育を優先し、教師間の交流や研修会議の時間がなかなか取れなかった</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園舎も明るくなり、先生方もより明るくなり、気持ちの良い挨拶をしてくれる ・ 子どもたち一人ひとりの話をよく聞いてくれるし保護者に対しても相談にのってくれていた ・ 自然に触れる遊びをもっと増やして欲しい ・ 他学年との交流も更に進めて欲しい ・ 毎日喜んで登園していく子どもを見れて嬉しい ・ 先生も子ども達もワクワクできるような保育をさらに進めて欲しい
<p>2 園関係者評価の意見を受けて（改善策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ わらべの保育について教職員間で研修し、泥んこ遊び・園外保育・イメージを持った遊び・ごっこ遊び・行事・食育についてなど共通認識をもつ ・ 子ども一人ひとりに寄り添い成長を認めながら、その子に必要な育ちを進めていく ・ 子どもも先生もワクワクするような保育をしていく ・ 子どもの様子を保護者に知らせる 	